

令和5年度学校自己評価及び外部評価（学校関係者評価及び第三者評価）

日本大学三島高等学校・中学校

学校自己評価及び外部評価（学校関係者評価及び第三者評価）につきまして、生徒がより良い教育活動等を享受できるよう学校経営及び運営の改善と発展を目指し、本校は以下の3点を目的として実施しています。

- ① 本校の教育活動や学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さなどについて評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図る。
- ② 学校自己評価及び保護者等学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者等から理解と参画を得て、学校・家庭等の連携協力による学校づくりを進める。
- ③ 学校自己評価及び外部評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、教育の質を保証し、その向上を図る。

方法につきましては、平成28年3月改正「学校評価ガイドライン」（文部科学省）を参照し、具体的には「教育活動」「学校生活への配慮」「進路指導」「管理運営」の4点の評価項目に分け、取組内容について、その達成度をA～D（A:十分達成できた B:達成できた C:おおむね達成できたが改善も必要 D:改善が必要）の4段階で評価しています。なお、令和5年度は、以下の4点を重点項目としました。

- ①教育活動
「新学習指導要領」や「高大接続改革」の対応。特に授業法の改善
- ②学校生活への配慮
「いじめ防止のための取組。特に日常生活における生徒指導の徹底」
- ③進路指導
「日本大学への進学者数増加に向けた取組。特に個別に対応した進路指導の徹底」
- ④管理運営
「令和6年度入学生の定員確保を目標とした生徒募集活動」

令和5年度取組評価

1. 教育活動

(1) 評価内容 「新学習指導要領」や「高大接続改革」の対応。特に授業法の改善（重点項目）

| 評価者 | 取組評価 | 評価に対する意見等 |
|------|------|---|
| 自己評価 | B | 全教員に対し、高校における3観点の評価法について説明会を開き周知した。新学習指導要領の課題の対応等、研究に努めた。高大接続改革については、「総合的な探究の時間」を活用した実践的な取組の中で進めている。 |
| 外部評価 | B | 生徒へのアンケート結果では高い評価となっている。高大接続という点では、日本大学の付属校として、同大学教授による授業や大学紹介などをおして魅力を感じてもらえるものがあるはずである。 新学習指導要領に関する説明会を開催して理解を促したことは評価できる。高大接続改革については、生徒個人々の意識改革につながる結果となり有効であった。 中学校の場合、「心構え姿勢」における予習・復習の「あまりあてはまらない」の数値が直近3年間であまり変化がなく向上していない。担任・生徒間のコミュニケーションは良好であることから、実際の要因（原因）などを探って改善すれば向上の糸口になるのではないかと。プレゼンテーション・コミュニケーション能力は総じて高い数値となっているが、中学校の時点からディスカッションやディベートなどを採り入れ、自分の意見をはっきりと伝える能力を育成することも有効と考える。 |

(2) 評価内容 学校行事の見直しと改善。特にコロナ禍収束後の各種行事の在り方について

| 評価者 | 取組評価 | 評価に対する意見等 |
|------|------|--|
| 自己評価 | B | 文化祭、体育祭をほぼ例年どおりの実施とした。文化祭は、コロナ禍で良かった点を引き継ぎ、通常開催とし、大盛況となった。体育祭は、学年ごとの開催とし、中規模開催となった。 |
| 外部評価 | A | コロナ禍で中止となっていた桜陵祭や体育祭などの学校行事が、いい形で復活できている。 令和5年度に限れば、年間最大行事である桜陵祭の再開があり、コロナ禍で中断していたため引き継ぎがない中での開催となったため学校・生徒ともに大変な状況だったが、ポジティブに捉えれば前例にとられない見直しのできたのではないかと。 |

2. 学校生活への配慮

(1) 評価内容 いじめ防止のための取組。特に日常生活における生徒指導の徹底（重点項目）

| 評価者 | 取組評価 | 評価に対する意見等 |
|------|------|---|
| 自己評価 | A | 各学期1回、全校生徒にアンケートを実施した。回答により担任と学年で対応し、特に問題に至るケースはなかった。組織的に遅刻者0運動を10日ごとに実施するなど教員や生徒の意識を変えるような取組ができた。 |
| 外部評価 | A | いじめについては特に耳にしたことがないため、学校としての対応はできていると考える。 日常生活において、生徒指導が徹底されていたことが評価できる。 中学校は少人数学級であるため、担任とのきめ細やかなコミュニケーションや相談が円滑におこなわれている。また、中学校では穏やかな生徒が多いように見受けられ、素行の悪い生徒もあまりいないため、生徒指導に際しても比較的素直に聞き入れていると感じる。 |

(2) 評価内容 教育相談体制の充実と改善

| 評価者 | 取組評価 | 評価に対する意見等 |
|------|------|---|
| 自己評価 | A | 養護教諭・カウンセラー・担任・学年主任・コース長等の連携を強化し、生徒及び家庭との連携を図ることができた。一つの問題に対し、チームを組み、多くの考えや解決策を得ることができた。 |
| 外部評価 | A | Classi等を介した情報共有ができており、周知されていると感じる。 担任教員やカウンセラーなどの個人で対応するのではなく、チームで連携しながら情報を共有し解決策を得たことは、高く評価できる。 |

3. 進路指導

(1) 評価内容 日本大学への進学者数増加に向けた取組。特に個別に対応した進路指導の徹底（重点項目）

| 評価者 | 取組評価 | 評価に対する意見等 |
|------|------|--|
| 自己評価 | A | 6月実施の学部説明会や7月の学部相談会は予定どおり行うことができた。12月の学部相談会も予定どおり1,2年生を対象に実施することができ、盛況であった。高校2年生を対象に日本大学模擬授業を通じて大学の講義をイメージできるようにするとともに、日本大学の魅力を知る機会となった。 日本大学に同じような学部があるにもかかわらず推薦制度を活用した他大学への進学者数が多かったため、一昨年度から、附属推薦入試制度の活用方法を学校として見直し、学校推薦型選抜（附属高等学校等）基礎学力選抜セレクション、附属特別選抜校内選考の順番に入れ替えた結果、日本大学への進学者数の増加につながった。内部推薦決定時点で日本大学の進学率（短大・専門含む）は58%となっており、今後の一般選抜の結果を含めると目標の60%達成は現実的な状況にある。当然この成果は、3年生の各担任の指導が的確であったことも要因である。 |
| 外部評価 | A | 進学率が60%程度となり、以前と比較して大幅に上昇した。このまま維持し、70%程度を目指して欲しい。 各担任の指導が的確で評価できる。 学校説明会において、中高一貫教育のメリットや日本大学のスケールメリットなどを保護者や児童・生徒に説明できており評価できる。 |

4. 管理運営

(1) 評価内容 令和6年度入学生の定員確保を目標とした生徒募集活動（重点項目）

| 評価者 | 取組評価 | 評価に対する意見等 |
|------|------|---|
| 自己評価 | D | 高校（680名）・中学（70名）共に入学定員を満たすことはできなかった。 令和6年度入学生数は、高校510名・中学46名であった。 |
| 外部評価 | C | 定員が充足されていないため、他の私立高校との違いや優位点を明確に打ち出すべきである。あるいは、逆に定員を削減し、質の高い生徒を集めることも有効ではないか。また、経営と質の両立もはかる必要がある。 中学校・高校ともに日本大学の魅力あふれる情報をわかりやすく伝える必要がある。 直接的な要因となっているかは不明だが、大学側の不祥事が中学校・高校の志願者数減少に影響しているのではないかと。また、施設面の充実が目を見張るものがあるが、その他の日大三島らしい魅力を探求し生徒募集に活かす必要がある。 |

(2) 評価内容 少子化に伴う学校経営の在り方についての検討

| 評価者 | 取組評価 | 評価に対する意見等 |
|------|------|---|
| 自己評価 | C | 生徒の通学圏の中心となる静岡県東部地域の公立中学校の10年間の生徒数の変化を調査・分析し、少子化時代を生き抜く永続的な学校経営の在り方について検討を開始した。 |
| 外部評価 | C | 定員確保と経営の両立を検討すべきである。昭和47・48年生まれが1,100人入学している時代から考えると、現在は約半数の500人である。現在からさらに3割減少する時代を生き抜くための経営体制について検討していくべきではないか。今後も県立から私立へという流れは継続すると考えられるため、質の高い単願志望者を集めていく必要がある。 定員確保に努めるのは当然のこととして、より質の高い、個性ある生徒の募集もおこなって欲しい。あわせて、三島市を含む近隣市町からの入学者数が増加するよう、きめ細やかな説明会などをおこなう必要があるのではないかと。 |

5. その他

上記の4項目以外に自由記述で挙げられたものを記載します。

- ・教員の指導と施設がとてすばらしく、この環境であれば生徒たちは明るい学校生活を送ることができると思う。
- ・中学校の保護者の一部には、授業料が高額だという思いがあるため、特段高くはないということを周知する手立てが必要である。例えば、県立高校でさえ雑費等の授業料以外の金額は公開していないなど、他校との比較結果を積極的に提示してはどうか。
- ・小学校への積極的な広報活動も必要ではないか。
- ・とても良い高校であるため、学校理解につながる活動を積極的に展開していく必要がある。
- ・学費が高いイメージがあるが、他の私立高校と同程度であるため、これまで以上に分かりやすい説明が求められる。

以 上